2021 年 2 月 1 日

各 位

スパークス・グループ株式会社
代表取締役社長 グループ CEO 阿部 修平
(東証一部：8739)

「未来創生２号ファンド」
インフラ/製造業向けカスタム AI や衛星画像解析 AI を開発・提供する株式会社 Ridge-i への投資実行

―機械学習・深層学習と既存技術のベストミックスで実効果のある AI を社会実装―

スパークス・グループ株式会社（以下、スパークスと表記）は、2018 年 7 月に設立した「未来創生 2 号ファンド」が、インフラ機械操縦自動化 AI や製造現場の検査 AI、衛星画像解析 AI 等、顧客ニーズに合わせたカスタム AI を次々と開発運用する株式会社 Ridge-i（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：柳原 尚史。以下、Ridge-i 社と表記）への投資（金額は非開示）を実行しましたので、お知らせします。Ridge-i 社は今回の調達資金を活用し、新規事業の開発・販売展開および衛星画像解析 AI 分野の主導的企業としての立場を強化をしてまいります。また、各業界から評価される技術力や AI 導入実績をより強固なものとする人材への投資を通じて、更なる事業伸長を目指します。

■投資先企業の概要

2016 年 7 月創業の Ridge-i 社は、顧客企業の課題発見から、解決に相応しい AI の開発実装、その運用までをワンストップで提供するプロフェッショナル集団です。技術の実用と研究の両立を追求して最先端テクノロジーを創造し、社会・顧客が持続的に効果を実感できる最高のソリューションを提供しています。

開発事例には、株式会社荏原環境プラントと共同開発したごみ焼却工場で 1 年以上実運用されているごみ種別認識 AI によるクレーンの自動運転システム、株式会社リコー社の撮像技術と組み合わせた製造業・建設業向け外観検査 AI プロダクトの開発、土砂災害範囲を自動検出する光学衛星データ解析 AI の開発、その他異常予兆検知 AI の開発、COVID-19 対策として短期間で開発した人流解析 AI ソリューション提供等多数の稼働実績を有しており、大手企業の高い評価の元、様々なプロジェクトを高い成功率で世に送り出してきました。Ridge-i 社は宇宙・衛星解析産業の活性化に注力し Tellus を中心とした x DataAlliance のパートナーシップ企業及び、スペース ICT フォーラム会員であり、また創業者であり代表取締役社長の柳原尚史氏は、経済産業省 政府衛星データのオープン＆フリー化及びデータ利用環境整備事業 ステークホルダ委員会 委員、総務省 宇宙通信政策 4 次元サイバーシティ活用タスクフォース等も歴任しており、業界内で幅広いネットワークを誇ります。また社会課題・SDGs への AI 活用に向けて、株式会社リバネスおよび日本財団と海ごみをドローンで検出する AI の実証実験なども積極的に取り組んでいます。

Ridge-i 社は今回の追加事業資金を元に、これからも AI の更なる活用事例の創出および AI の次を見据えた研究開発に向けた取り組みを加速します。そして、様々なバックグラウンドを持つ優秀な人材が集まるプロフェショナルファームとして、「社会課題・顧客課題を先端技術を活用して解決し、新しい社会・ビジネスを創造する」をミッションに、顧客と共に歩みを進めて参ります。

■「未来創生（１号）ファンド」及び「未来創生２号ファンド」の概要

未来創生（１号）ファンドはスパークスを運営者とし、トヨタ自動車株式会社、株式会社三井住友銀行を加えた3社による総額約135億円の出資により、2015年11月より運用を開始しました。最終的には、上記3社を加えた計20社からの出資を受けました。「知能化技術」「ロボティクス」「水素社会実現に資する技術」を中核技術と位置づけ、それらの分野の革新技術を持つ企業、またはプロジェクトを対象に米国、英国、イスラエル、シンガポール、日本の約50社に投資しました。2018年下半期には、既存投資領域3分野に加え、新たに「電動化」、「新素材」を投資対象とした未来創生２号ファンドの運用を開始しました。2020年12月末時点の運用資産残高は、1号と2号あわせて、885億円となっています。

未来創生ファンドの投資実績：https://mirai.sparx.co.jp/investment/

■本件に関するお問い合わせ先

スパークス・グループ株式会社 広報室
TEL：03-6711-9100 / FAX：03-6711-9101
pr_media@sparxgroup.com